

「下水道管更生技術施工展2020横浜」 開催



井坂 昌博
ISAKA Masahiro

(公社)日本下水道管路管理業協会
常務理事

1. コロナ禍で実施した 更生工法分野最大の施工展

下水道管更生技術施工展(第20回)が10月29日(木)に横浜市にある動物園ズーラシア北門駐車場で開催された。関東地方での開催は、2016年の千葉で実施して以来4年ぶりである。

2020年は新型コロナウイルスの影響で、人が集まることによって成立する会議や会場試験が中止・延期になったが、特にイベントに関してはほぼ全てが開催されなくなった。下水道界においても最大のイベントである下水道展が中止になったほか、様々なイベントが中止に追い込まれた。

そのような状況下であるので、本施工展の開催について、協会内部で様々な議論をし、私自身も大いに悩んだ末、コロナ禍という一面閉塞された状況を打破するために、どこかで誰かが何かをやらなければならないと思い、開催を決断した。もちろん、考えられるあらゆる感染対策を施した。検温や消毒は勿論、説明者のフェイスシールドの装着や、密を避けるため開会式テントの倍増を実施した。しかしそれでも、この会場でクラスターが発生したらどうなるのかという不安は、開催後2週間を過ぎるまで私の頭の中から離れなかった。幸いにも執筆時の本日(11月12日)が2週間目になり、クラスターが発生したとの連絡がなかったので、今は本当にほっとしている。

施工展に話を戻そう。現在更生工法は多くの工法がある。日本下水道新技術機構の審査証明を取得している工法だけでも67工法に上るため、多くの人はその違いが分からない。しかし、土木技術という性格上、実物を見、説明を聞けば、ほぼ理解できる。この展示会は、各種工法や関連技術を一堂に会しデモ施工を実際に見てもらい、その最新の技術を体で感じてもらうと毎年全国を巡回して開催しているものである。今回は関東地方において、今後管更生工法の発注が大き

く伸びるであろうと予想される中での開催という事もあり、39社・団体と多くの出展数となった。来場者数も1,600人を超え、コロナ禍であったが、直近10回開催した中で最大の人出があった。また、こうした展示会において出展者は、官公庁の職員に自工法をPRする事が大きな目的の一つである。今回官公庁の職員の割合を計算したところ、これまでの官公庁の職員人数の平均が全体の20%であったのに対し、今回は29%と従来よりも9ポイントも多かった。全体人数も最大であるので、官公庁の職員の方の人数も最大であった事がわかる。そうした意味で今回の施工展は盛況であったと言える。

下水道の展示会では、今回開催されなかった下水道展が最大のものであるが、屋内であることやブースの制約から全ての出展者がデモンストレーションを行うことは難しい。更生工法においてこれほど多くの工法が一堂に会してデモンストレーションを行っているのは、この施工展以外には見当たらない。この施工展が注目を集める所以である(写真-1)。



写真-1 会場風景

2. 世相を映す展示内容

開会式は、ミス日本水の天使の中村真優さんに司会をお願いし、来賓として国土交通省水管理・国土保全

局植松龍二下水道部長をはじめ、関東地方整備局建政部長、横浜市環境創造局長が忙しいスケジュールを縫って出席され、注目が集まる中での進行となった。主催者を代表して当協会の長谷川会長の挨拶に引き続き、植松部長をはじめとして各来賓の挨拶が行われ、管更生工法に対する期待が述べられた。テープカットの後は来賓の方が各ブースを見回るなか、いよいよ開幕となった（写真-2）。



写真-2 開会式（テープカット）

表-1 出展団体の分類

分類	出展社数
管きよ更生・修繕改築	23
取付管穿孔	5
コンクリート防食・被覆	5
マンホール改築・補修	13
管内洗浄・清掃	7
点検・調査・診断	9
安全衛生管理	2
耐震化	5
その他	3

出展団体を分類別に示したのが表-1で、管きよ更生・修繕改築技術が中心であるが、関連技術としてマンホール改築や管内清掃を始め、調査点検技術や耐震化も多く出展され、管路管理全般の展示会の様相であった。特に今年はマンホール改築と耐震化技術が多く出展されていることが特徴であった。下水道の管路は大別すると、管そのものを表す管きよとマンホールになる。更生工法について、管きよについては先に述べたように67もの工法があり充実しているが、近年までマンホールの工法については数が限られていた。しかし、ここ数年マンホールの更生工法が数多く出て

きた。その現状を反映するように今回多くのマンホール改築工法が出展された。耐震化技術についても近年の風水害の被害を目の当たりにして防災意識が高まっている世相を反映して出展数が増えたと考えられる。

展示会では、実演も行われ、1団体20分程度の枠を設け、実機を用いたデモンストレーションによって施工の手順や様子を実際に目で見て確認することができた。「百聞は一見に如かず」ということわざがあるが、実際に見た事は長く記憶に残り強く印象付けられる。

3. 展示会に合わせた自治体研修会の開催

今回は、神奈川県、関東地方下水道協会、日本下水道事業団の職員や会員向けに管きよの更生工法の研修会を当協会が開催した。この研修会で更生工法全体の概要を座学で聞き、その後、施工展において実際にデモンストレーションで更生工法を見るという形式である。自治体の職員が参加しやすいようバスを用意したため、遠くは山梨県の自治体職員が参加していただいた。この施工展の目的が自治体職員への更生工法に対する理解促進と、発注者側である自治体への各更生工法のPRであることを考えた時、これらの研修に多くの自治体職員の参加をみた事は、今回の施工展が例年以上に有意義であったと考える。

また、今年も参加していただいた方に効率的に見学していただくため、午前午後それぞれ3つのグループを設け、関東支部会員によるガイドツアーを企画した。ガイドの引率や出展者の説明があることから、参加者にとっては様々な工法を知る大変良い機会であった（写真-3）。



写真-3 来賓の各ブース廻り

4. テントから溢れる人数の講演会

併催行事として表-2に示すような講演会を、昼の時間に水の天使の中村真優さんの司会の下、特設テントにおいて行った。参加者は立ち見が出るほどで、テ

表-2 講演会プログラム

「マネジメント時代の下水道事業」
国土交通省水管理・国土保全局下水道部長 植松龍二
「横浜市における下水道管路施設の改築更新の取組」
横浜市環境創造局管路保全課担当課長 戸谷公朋



写真-4 講演会の様子

ントから溢れる状況の中、写真等を用いた講演に熱心に聞き入っていた（写真-4）。

講演は、国交省の植松部長から災害・新型コロナウイルスの対応や予算、下水道事業の各種施策の話をして頂いたことに続き、横浜市の戸谷課長から横浜市の改築更新の現状と対応をお話しいただいた。

今年の特徴は横浜市主催によるパネルディスカッションの実施である。講演会終了後のテントを利用し、パネリストとして国土交通省の調整官、新技術機構の副部長、管路管理業協会の神奈川県部会長、横浜市の管路整備課長の4人が下水道事業の将来像というテーマのもと、活発な議論が交わされた。

5. 来年の施工展へ

この展示会は、毎年当協会の7支部の持ち回りで開催されている。来年の開催場所は、北海道支部の札幌市で開催することが決定している。札幌という北海道の中心で開催することもさることながら、今後更生工法が大きく伸びる地域であると考え、これまでにない展望のある施工展が開催できると期待される。北の大地、北海道の地にふさわしいものとなるよう当協会が一丸となって企画していきたい。



バナー広告掲載のご案内

「工法ナビ」へのバナー広告掲載をご希望の方は非開削技術編集室またはJSTT事務局までお問い合わせください。

広告のお申し込み・お問合せ

(一社)日本非開削技術協会事務局
Tel 03-5639-9970 Fax 03-5639-9975

非開削工法の普及を目指し設計をお手伝いする画期的サイト

■ 工法ナビ バナー広告掲載料金

掲載場所	掲載期間	掲載料金
TOPスペース	6ヶ月	60,000円
技術区分内スペース	上半期(4月1日～9月30日) 下半期(10月1日～3月31日)	18,000円

※広告掲載料金は1掲載当たりの金額です。(消費税別)